



シュウメイギク (八重咲き)



秋の人気の宿根草

秋明菊

秋になると必ず出回ってくる鉢物にシュウメイギクがあります。漢字で書くと「秋明菊」ですが、菊の仲間ではなくアネモネの仲間です。海外ではジャパニーズアネモネと呼ばれ、ボーダーガーデンなどに使われる人気の宿根草となっています。しかし原産地は日本ではなく中国なのですが、古くから日本に渡来したものが野生化したおり、それが海外に持ち帰られたため、その名で呼ばれるようになったようです。

花の特徴

花色は白とピンクの2色で、一重咲きと八重咲きがあり、八重咲きは細い花弁が密集するため、この八重咲きを見ると「菊」の名が付いたのようなくずける気がします。また、一重咲きは5弁花なのですが、よく見ると5枚の花弁の大きさが不揃いで、面白い特徴があります。

進む品種改良

もともとは1mほどになる高性の宿根草ですが、品種改良によってコンパクトになった園芸品種もたくさん



シュウメイギク (白)



シュウメイギク (ピンク)

あります。特にここ数年は国内での育種が進み、多花性で開花期間も長く鉢や花壇で長く楽しめる品種も多数出回るようになってきました。「ねぶた祭り」、「祇園祭り」などの祭りシリーズや、「星娘」「華娘」などの娘シリーズなどがオススメです。

育て方のポイント

丈夫な植物なので育て方はとても簡単です。ただし、強い日差しは嫌い、やや湿気のある環境を好むので、置き場所には注意してください。もともと野生状態で育っているところは、里山の中の道沿いといったところなので

す。落葉樹の下で木漏れ日程度の日差しが、少なくとも強い西日が避けられるところが好みます。

鉢植えを購入した場合、根の生長が早いので、根詰まりしていることが多いので、すぐに一回り大きな鉢に植え替えるといいでしょう。水やりが楽になるだけでなく、さらにたくさん花が咲いてきます。もちろん庭に植えるところがあれば、庭植えをおすすめします。特に背の高い品種は庭植えで真価を発揮し、落葉樹の下の花壇などでボーダー風に植えれば、とても雰囲気のある風景を演出できます。

植え替えのコツ

冬は地上部が枯れてなくなりますが、寒さにはとても強いので、何もする必要はありません。植え替えは春先の3月頃がよいでしょう。このとき、元の株を株分けすることもできますが、長く伸びた根からたくさんのお不定芽を出す性質があるため、ややしのやかな芽のついた根を切り取って植えておけば、いくらでも増やすことができます。そこまでしなくても、4月頃になれば少し離れたところからもたくさん新芽が伸び出すので、これを掘り上げて新しい株を作ることでも簡単です。生長は早いので、小さな株からでもしっかり育てれば、秋には花を十分に見ることが出来ます。